

# 人生にずっと寄り添うジュエリーを 幸せをつなぐ宝石の伝道師



ジェイシーパール  
J.C.BAR 代表取締役  
しま たっひと  
**嶋 龍仁氏**

1975年 宝飾業界で働き始める  
1997年 独立しJ.C.BAR創業  
2000年 J.C.BARを法人化、代表取締役に就任

地方にありながら日本中の業界関係者の注目を集めてきた宝飾サロン「J.C.パール」。海外買付からオーダーメイド、デザイン販売、メンテナンス、リメイク、買取まで、他にはない独自の「一貫サービス」にこだわり続ける理由を、嶋龍仁代表取締役に伺いました。

**責任を持って届けたいから  
自社ですべてを一貫提供**

「宝石やジュエリーを仕入れて売るのが宝飾店」と皆様お考えかもしれませんが、J.C.パールはそうではありません。ではどんな店か、端的に言えば「責任を持ってお届けしたいがゆえに、素材選びからデザイン・制作・メンテナンスまで、すべてを自社で貫く提供する店」となります。海外で宝石を買付、デザインも制作も一括管理。そんな店にはあまりないかと思えます。

なぜこうなったのか、話は創業前に遡ります。当時宝石店に勤めていた私の仕事は、仕入れたジュエリーをそのまま売ること。「結婚指輪を無くした、同じものを」と泣きつかれても既に廃番でお渡しできず、かと

いつで自分で作れるはずもなく、もどかしく感じる日々でした。

また、天然宝石に魅せられて世界中を巡るうちに、日本の販売価格にも疑問を抱き始めました。各国はグローバルプライスで売っているのに当時の日本は中間流通の比重が大きく、差が顕著だったからです。

宝飾品は「生物」。適正価格でお届けして永く楽しんでいただきたい。そんな思いが募り1997年、天然宝石をオンラインのジュエリーに創り上げるオーダーメイド専門店、J.C.パールを開業しました。

**物語を込めた唯一無二を創作  
末永くつなぐサービスも多彩**

やがて創業28年。独立時の思いを「つなぐ」という言葉に託してサービスの進化に挑んでいます。まずご

紹介したいのが、自然が育んだ神秘的の宝石とお客様を「つなぐ」宝石の伝道師としての仕事です。私自身、世界中で買付た天然宝石を日本にプロモートする仕事に長年携わって、息子の嶋直樹専務はグリーンランドなど各国の鉱山に入坑して状況を直に確かめ、質の高い宝石の調査や買付に努めています。

また、幸せを「つなぐ」オーダーメイドも弊社ならではの。たとえば結婚指輪なら、お二人から伺った夢や思い出をベースに、唯一無二の物語を持つジュエリーを創作。お子様が生まれたら誕生石を結婚指輪にあしらうなど、ジュエリーを通じて人生の折々の幸せをつないでいます。

さらに、「生涯から次世代へ、末永く「つなぐ」お手伝いとして、指輪のサイズ直しやパールネックレスの糸替えといったメンテナンスの永続無料化を実現していますし、自慢の提案力や技術力を駆使したリメイク・リフォームサービスも好評。また、おうちの引き出しの奥に眠る



希少なグリーンランドルビー。日本人で初めて嶋専務が同鉱山に入坑し、品質やSDGsに基づく採掘環境を確認

宝飾品を資源や資産に「つなぐ」買取サービスなども大勢の方にご利用いただいています。

J.C.パールのJ.C.はジュエリークリエーション、パールはイタリア語でパールを指し、気楽に寄れる場にとの願いを込めたもの。実際に結婚指輪を買われたご夫婦がお子様連れで来店されることもよくあります。

もし弊社のサービスに少しでも興味を持たれたら、どうぞカフェ感覚でお気軽にお立ち寄りください。

# 声のプロフェッショナルとして 心に届く確かな声を探求



株式会社 研声舎 代表  
はやし つねひろ  
**林 恒宏氏**

語り手・ナレーター・音声言語指導者／石川県金沢市出身  
2002年 音声学の磯貝靖洋氏(Vocal Arts Service Center主宰 本部東京)に師事  
2013年 「音とことばの磯貝メソッド®」認定講師  
2021年 ナレーションを担当するケーブルテレビ富山のドキュメンタリー番組  
「新プライド～富山の仕事人～」がギャラクシー賞テレビ部門で選奨を受賞  
TV・ラジオ番組、CMなどのナレーションで活躍。音楽演奏家とのユニット「語り音」  
「現代散楽」で、奈良(東大寺)や京都など全国各地で公演を重ねている。

テレビ番組やCM、舞台など多彩に活躍するナレーター、林恒宏氏。音声言語指導者としてアナウンサーや声優を指導し、ナレーターの養成も行っています。声の仕事をしたきっかけや、表現者かつ指導者としての思いを語っていただきました。

## ナレーターを究める覚悟 きっかけは師匠との出会い

高校時代から演劇にはまり、ずっと劇団活動をしていました。そのとき、先輩たちがナレーターとして活躍しているのを見て、僕も始めたいです。地方企業のCMでは、表現力のある地元の劇団員が重宝されてきました。声だけの仕事なので、ラクだと思っただけですが、うまく演じているつもりでも僕の声は薄っぺらい。これはきちんと学ばねばと思いました。

それで金沢で行われた磯貝先生の講座に参加したんです。情感たっぷりに台詞を読む僕に、先生は「気持ちで芝居をするな。音をつくれ。君の心の中は関係ない。悲しみを伝えなければ、多くの人が悲しい」と

想起する音さえつくれば、その感情は伝わる」と言われました。芝居は気持ちでやるものと思っていた僕には衝撃でした。そして先生は、さまざまな音声をいともたやすく出してみせるんです。「これは凄い。本物だ！」と思い、東京の先生の元に通いました。もう22年になります。

## 伝えたい気持ちが 相手を思いやる心を生む

声の技術は2、3年で身につきました。でも、今も通っているのは声を研ぐことで、心も研かれると実感しているからです。

当時の僕は自信がなくて、おどしていました。そんな僕に磯貝先生は胸声を叩き込んだ。胸に響かせる堂々とした声です。その声で話すと、まず周囲がしっかりした

人だと勘違いしてくれる(笑)。そして一番身近でその声を聞いている自分自身が、自分の中にそういう性質があるんじゃないかな、かと思えるようになる。そこから自分が変わっていったんです。自己啓発本を読むよりも、研いた声



緊迫感のある重厚な声から優しく包み込むような穏やかな声まで、さまざまな音をつくり上げる林さん

が僕に自信をくれました。また、声を研ぐことで、声がどのように相手に届いているか、この場にふさわしい声になっているか、そういう意識を持つようになりました。声は自分のものですが、半分はそれを受け取る相手のもの。自己中心的だった自分が相手のことを考えられるようになりました。

## メソッドを次世代に伝え 日本語の美しさを海外へ

当初、人に教えるつもりは全くなかったんです。磯貝先生から言わ

れて講師になったのですが、最初はどうしていいかわからず、辛かった。でも、教えることで、自分自身の理解も深まることに気がつきました。今は磯貝先生のメソッドを次世代に伝えていくのが大事な役割だと思っています。

また、演奏家とユニットを組んで全国的な活動をしています。海外にも日本語の響きの美しさを広めたい。フランスには言語の美しさを感ずってもらえる文化があると聞いています。そこで、ぜひ平家物語を語ってみたいですね。